

安全啓発リーフレット(令和6年度版)

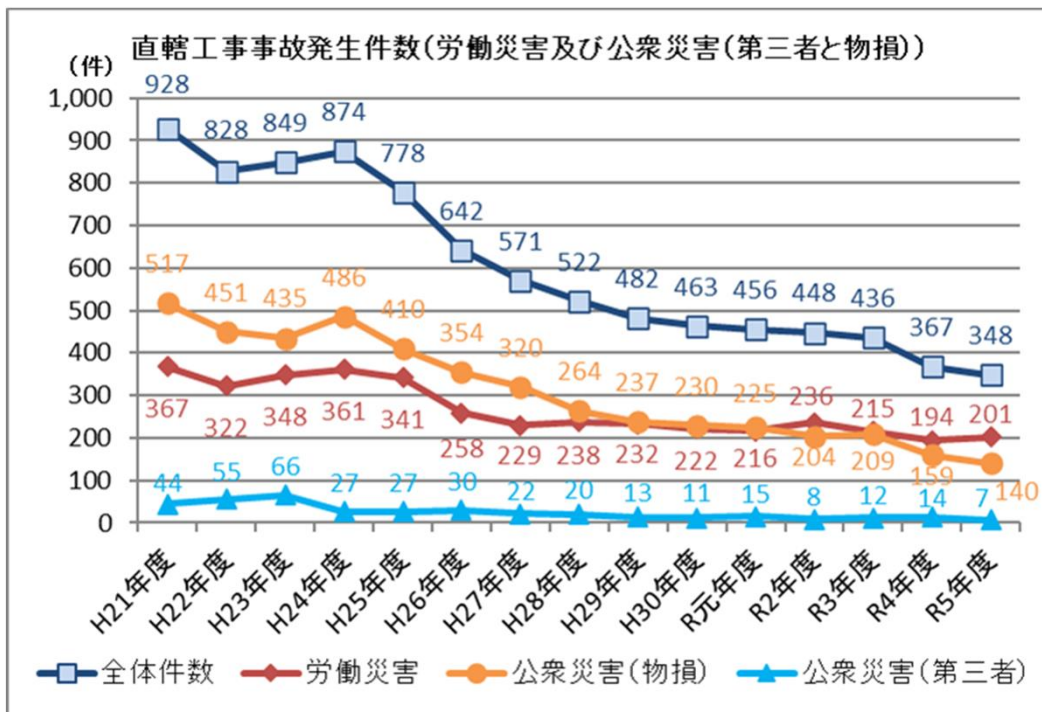
令和5年度の事故発生状況

目 次

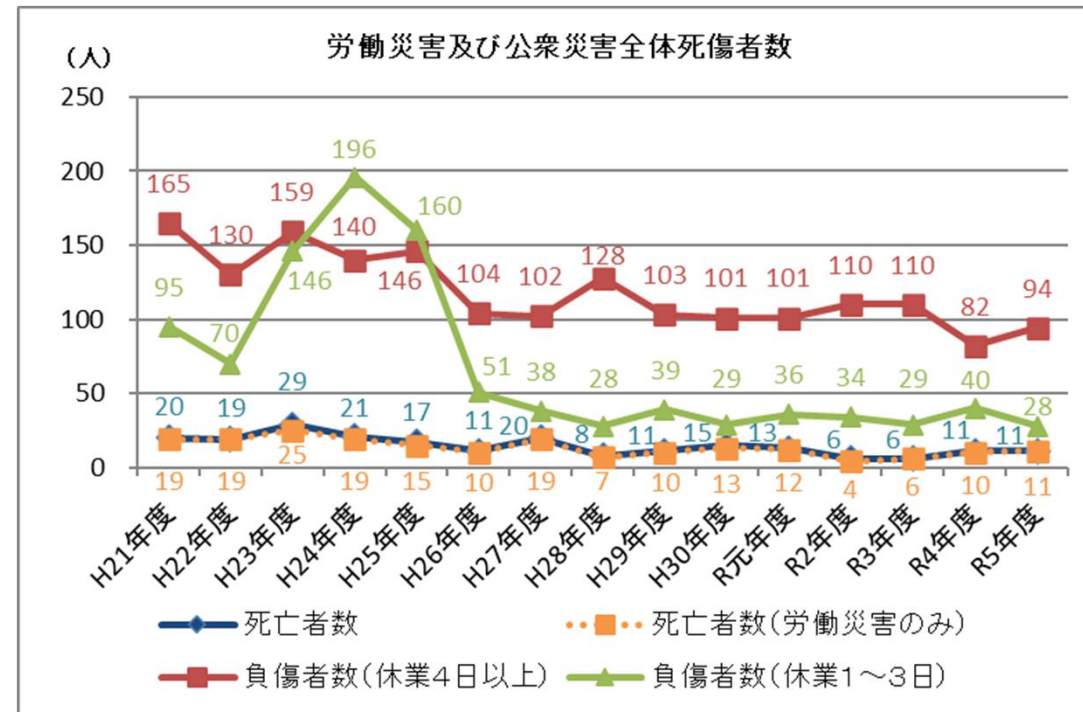
・ 直轄工事における事故発生状況①（平成21年度～令和5年度）	2
・ 直轄工事における事故発生状況②（平成21年度～令和5年度）	3
・ 【事例1】労働災害 建設機械との接触	4
・ 【事例2】労働災害 建設機械の転落	5
・ 【事例3】労働災害 脚立からの墜落	6
・ 【事例4】労働災害 飛来落下	7
・ 【事例5】労働災害 取扱運搬	8
・ 【事例6】公衆災害	9

直轄工事における事故発生状況①（平成21年度～令和5年度）

工事事故発生件数(労働災害及び公衆災害) 平成21年度～令和5年度



死傷者数(労働災害及び公衆災害) 平成21年度～令和5年度

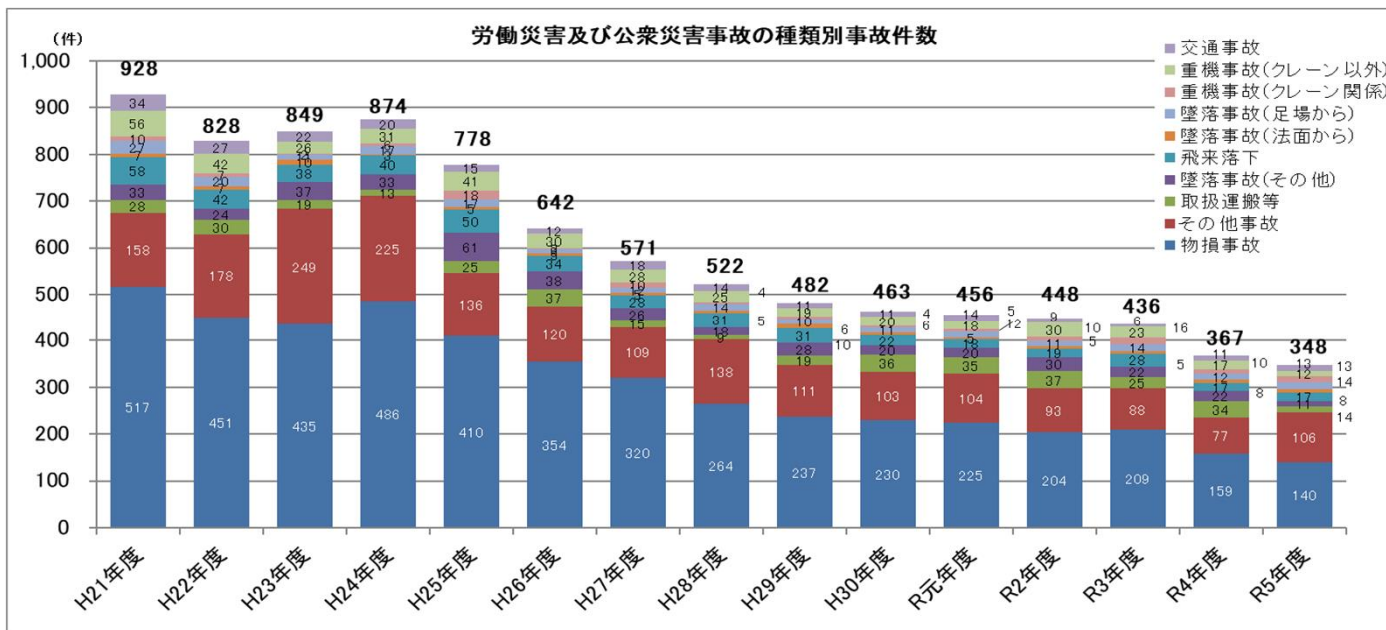


令和5年度の事故発生状況

- 労働災害及び公衆災害による事故発生件数は348件であり、数年間連続で減少傾向にある。
- 労働災害の事故発生件数は201件であり、昨年度より7件増加した。
- 公衆災害(物損)の事故発生件数は140件であり、昨年度より19件減少した。
- 労働災害及び公衆災害による死亡者数は11人であり、昨年度より増減はない。
- 負傷者数(休業4日以上)は94人であり、昨年度より12人増加している。
- 負傷者数(休業1～3日)は28人であり、昨年度より12人減少している。

直轄工事における事故発生状況②（平成21年度～令和5年度）

事故発生件数 平成21年度～令和5年度



【事故発生件数 前年度との比較】

【重機事故】

○ クレーン以外は17件から12件に減少し、クレーン関係は10件から13件と増加した。

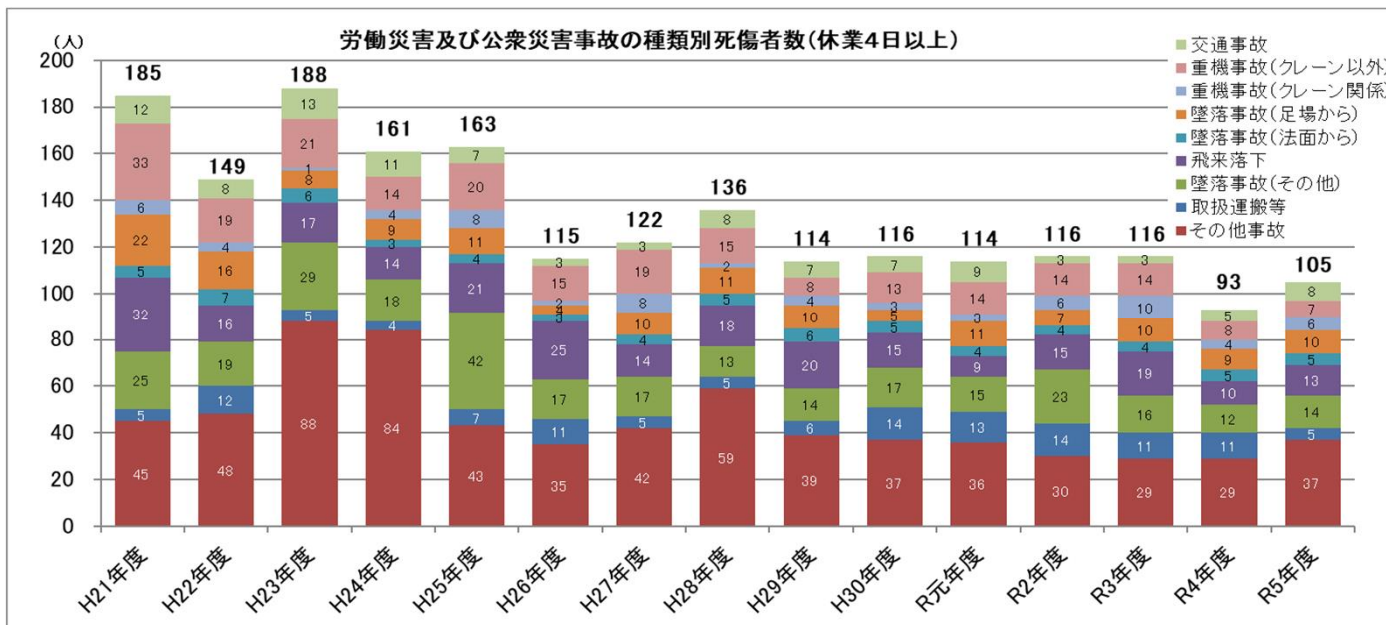
【墜落事故】

○ 足場からの墜落は、12件から14件に増加し、法面からの墜落は8件と前年度と増減はない。

【飛来落下】

○ 17件と昨年度より増減はない。

死傷者数(休業4日以上) 平成21年度～令和5年度



【死傷者数(休業4日以上) 前年度との比較】

【重機事故】

○ クレーン以外は8人から7人に減少し、クレーン関係は4人から6人と増加した。

【墜落事故】

○ 足場・法面ともに昨年度と同程度となった。

【飛来落下】

○ 昨年度は減少傾向であったが、10人から13人となり、今年度は増加した。

バックホウの誤操作により接触し被災（負傷事故：休業4日以上）

【労働災害 事例1】

- ① 日 時：令和5年2月
- ② 作業内容：割栗石投入作業
- ③ 事故内容：バックホウが誤操作により旋回し、バケットが合図者に接触した。
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷(休業4日以上)

【事故発生状況】

- 割栗石をバックホウで捨石上に投入する作業を行っていた。
- 作業の合間に合図者が飛散した石材をバケットに投入しようと、立入禁止エリアに侵入した。
- オペレーターはエリアから出るように合図者に声を掛けようと、運転席の窓から顔を出そうとした際、操作レバーに体が当たり、バックホウが旋回し、バケットが合図者に接触した。

【事故発生原因】

- カラーコーンで立入禁止エリアの明示を行っていたが、不十分であった。
- オペレーターが安全装置を作動させずに身を乗り出そうとしてしまった。
- 合図者が計画書にない補助作業を行った。

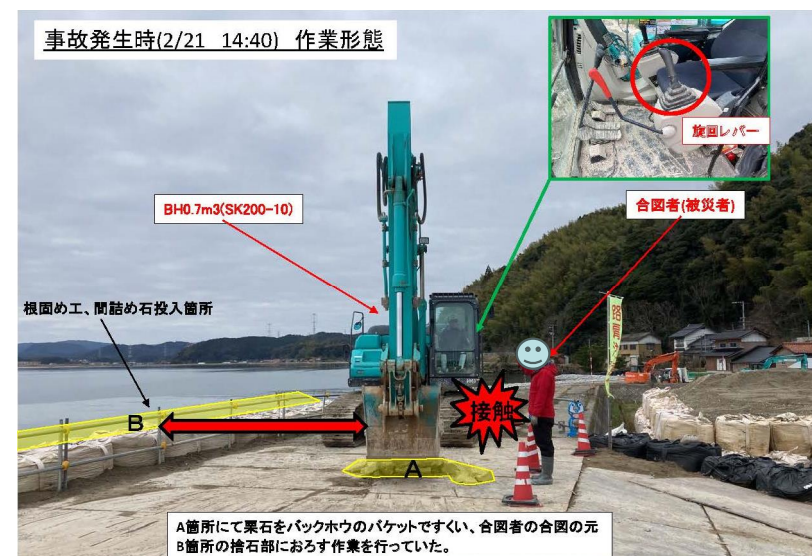


図 事故状況写真

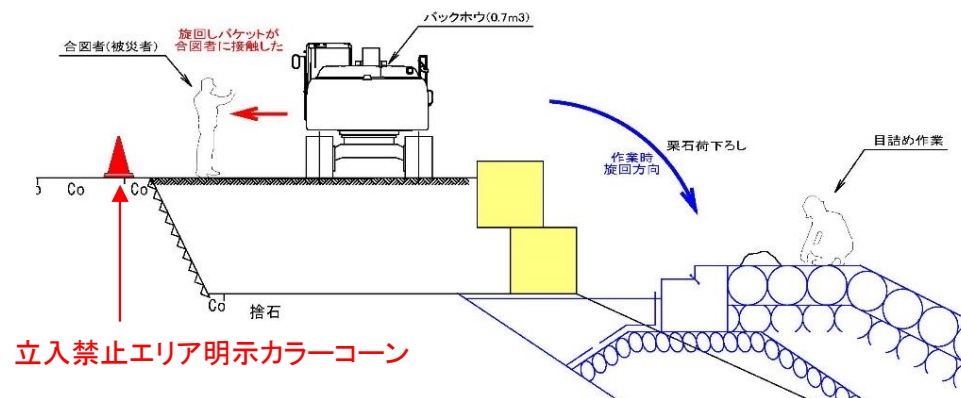


図 事故状況断面図

バックホウが法面より転落し被災（負傷事故：休業4日以上）

【労働災害 事例2】

- ① 日 時：令和5年8月
- ② 作業内容：残土受け入れ作業
- ③ 事故内容：バックホウが法面より転落し、オペレーターが負傷
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷（休業4日以上）

【事故発生状況】

- 残土仮置場において、受入れ待機中にバックホウを移動させた際、残土仮置場の天端から法面を転落した。(落下高さ約7m)
- バックホウが転落した際、キャビンが変形し、オペレーターの足が挟まれて負傷した。

【事故発生原因】

- バックホウを後進させる際、後方の重機足場に余裕があるという思い込みで操作をしてしまった。(ヒューマンエラー)
- 誘導員の配置がなかった。
- 法肩の明示・注意喚起がなされていなかった。



図 事故状況写真

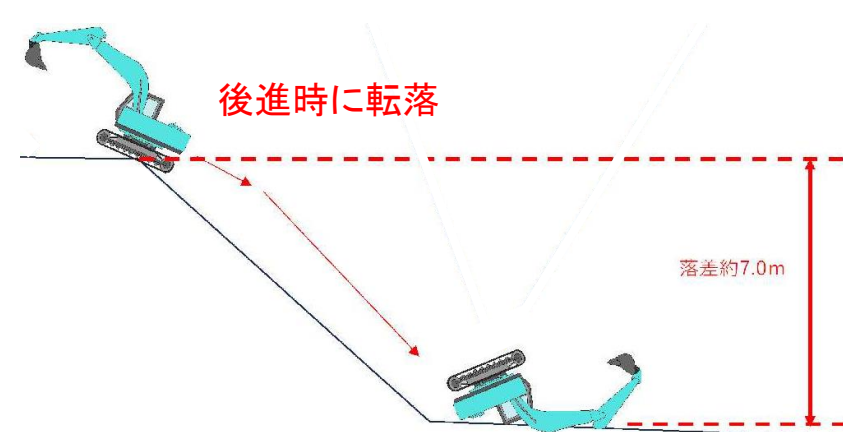


図 事故状況断面図

脚立から墜落し被災（負傷事故：休業4日以上）

【労働災害 事例3】

- ① 日 時：令和5年8月
- ② 作業内容：ケーブル支持部材の取付作業
- ③ 事故内容：脚立上でバランスを崩し、飛び降りた作業員が負傷
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷（休業4日以上）

【事故発生状況】

- トンネル内にて歩道規制を行い、坑内ケーブルの支持部材の取付作業を行っていた。
- 脚立上で取付ボルトを工具で締め付けていたが、増し締めの際に工具がボルトから外れてしまい、その反動でバランスを崩し、脚立より飛び降りて負傷した。

【事故発生原因】

- 施工計画では可搬式作業台を使用する作業であったが、使用せず、不安定な脚立上で作業を行ってしまったため。

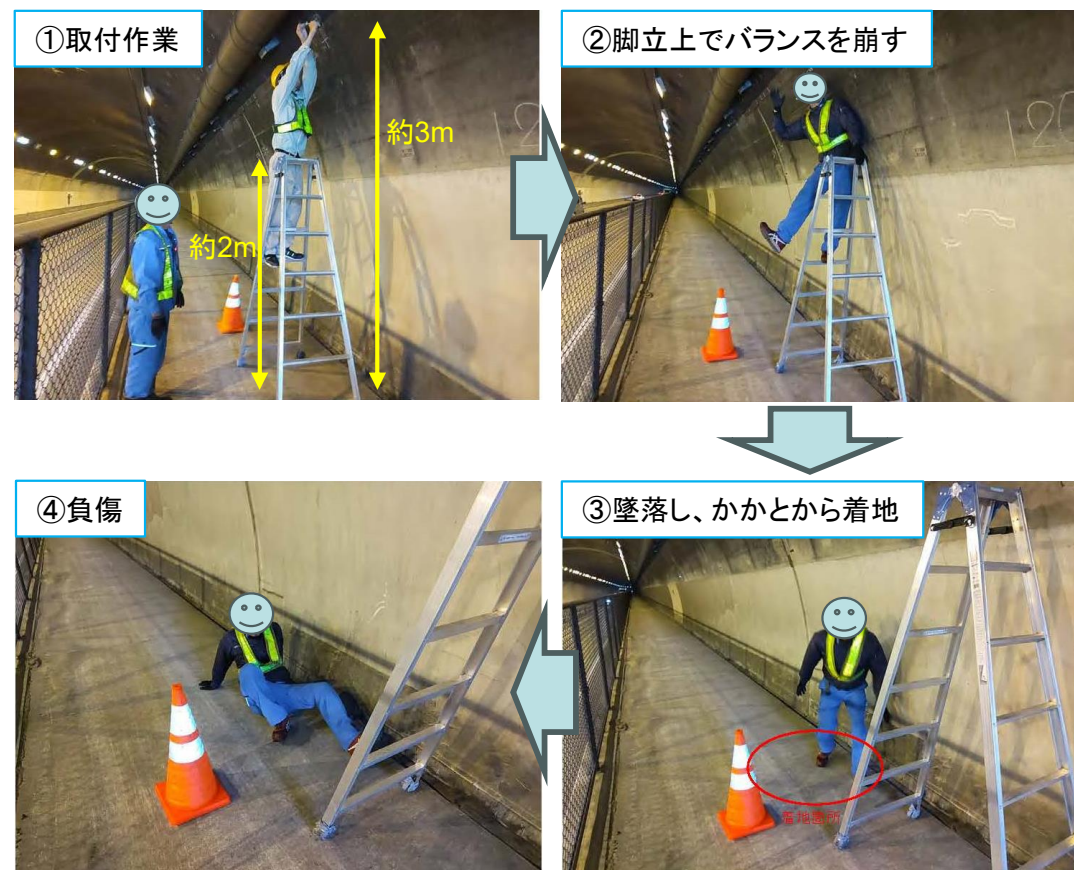


図 事故状況再現写真

資材とともに転落し、資材の下敷きとなり被災（負傷事故:死亡）

【労働災害 事例4】

- ① 日 時：令和5年7月
- ② 作業内容：側溝設置作業(休憩中)
- ③ 事故内容：法面から資材(V型側溝)とともに転落し、資材の下敷きとなり負傷
- ④ 被害状況：作業員 1名死亡

【事故発生状況】

- 被災者は用水路の側溝を設置するため、重機オペレーターとして掘削作業を行っていた。
- 休憩のため重機を降り、法肩に仮置きしていた側溝に座っていたところ、バランスを崩して側溝とともに法面を転落し、体が側溝の下敷きとなり被災した。

【事故発生原因】

- 休憩用のテント・椅子を配布していたが、使用せず、不安定な場所に仮置きされていた側溝を椅子代わりに休憩してしまった。
- 側溝の仮置き場所が計画書等で明確に示されておらず、立入禁止措置も不足していた。

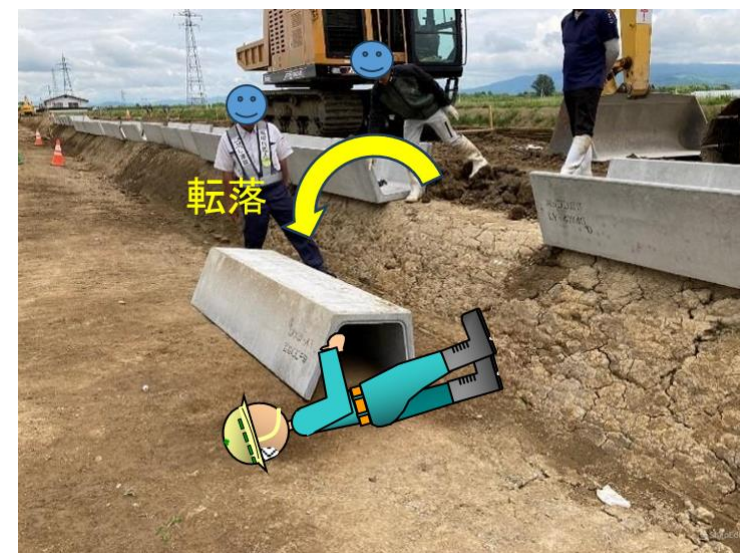


図 事故状況再現写真



休憩中に一つのトラフに二人で座っていたところ
バランスを崩し転落し、トラフの下敷きに。
一人は転落後に落下するトラフを回避した。

図 事故状況断面図

吊具が外れて吊荷が落下し被災（負傷事故：休業4日以上）

【労働災害 事例5】

- ① 日 時：令和5年7月
- ② 作業内容：敷鉄板移動作業
- ③ 事故内容：吊りフックが外れて敷鉄板が落下し、作業員が負傷
- ④ 被害状況：作業員 1名負傷(休業4日以上)

【事故発生状況】

- 被災者は敷鉄板を移動させるため、クレーンのフックで敷鉄板に玉掛けした。
- 被災者の合図により、クレーンオペレーターが敷鉄板を吊り上げたところ、吊りフックが外れ、吊荷が被災者の足の上に落下し、負傷した。

【事故発生原因】

- 地切り前の玉掛状態の確認、玉掛者の退避が不十分であった。(3・3・3運動の不履行)
- 当該作業の計画では、玉掛者・合図者・監視員・玉外者を配置して作業を行うこととしていたが、体制が整う前に被災者が単独で作業を行ってしまった。

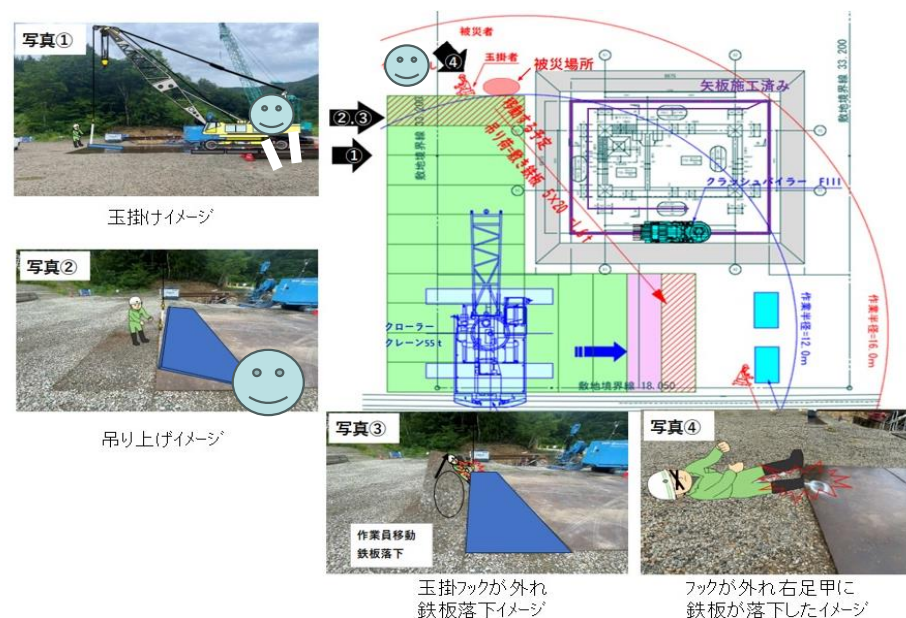
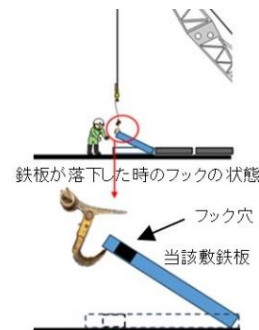


図 事故状況再現写真



適正なフック玉掛けの状態



①フックを通すために、■部に穴を掃る。
②フックを掛ける。

図 事故時の玉掛状況(左)・適切な玉掛状況(右)

通行止区間で自転車が転倒し被災(第三者) (負傷事故:休業4日以上)

【公衆災害 事例6】

- ① 日 時：令和5年1月
- ② 作業内容：休工のため、作業無し
- ③ 事故内容：通行止措置として設置していたロープに自転車が突っ込んで転倒し、負傷
- ④ 被害状況：第三者 1名負傷(休業4日以上)

【事故発生状況】

- 事故当日は休工のため、作業を行っていませんでした。
- 工事に伴う、堤防天端の通行止め措置として設置していた制限ロープに第三者が自転車で突っ込んで転倒し、被災しました。

【事故発生原因】

- 事故当時、常設していた立入禁止の垂幕が一部亡失していた可能性があり、通行止措置の視認性が低くなっていた。
- 強風後に設置していた垂幕の点検を行っていませんでした。
- 通行止め箇所手前の予告看板がなかった。

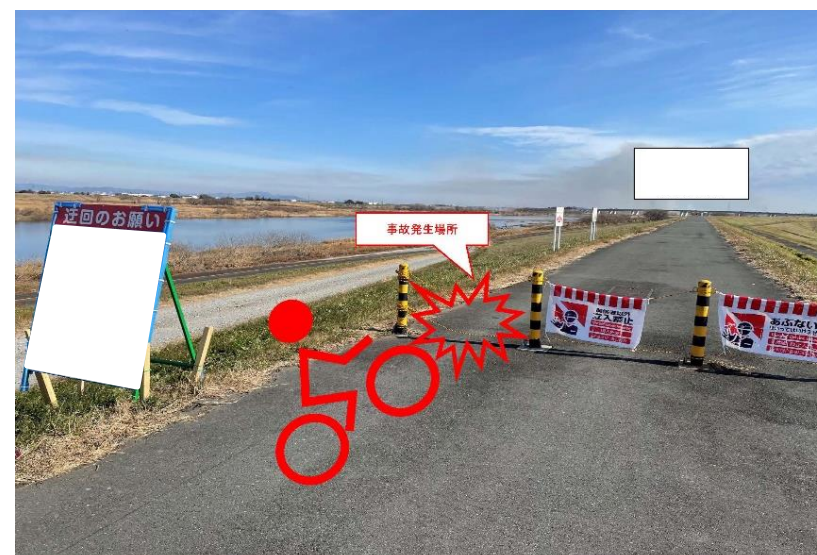


図 事故状況再現写真

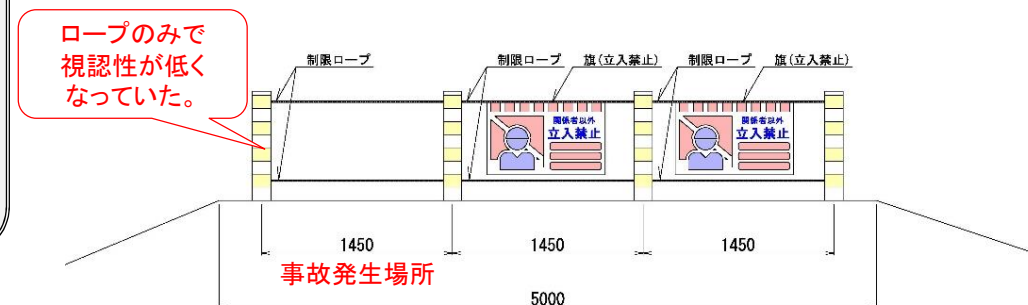


図 事故状況断面図